

新編水滸畫傳

九編

九

875
89



門 逸 21
875
卷 89

新編水滸畫傳卷之八十九

東武 高井蘭山翁

譯編

明治三十七年
十一月十日
講求

○其二

斯說宋朝の張招討と劉都督。童極密希し後ひありし王趙のあ
將と目ど陸州ふをて。兵馬を合せ集めり。宋江が編と引渡さん
として陸州と東とつゆ。各郭をめぐり相迎之。宋江があきまを述べ張招
討が云將軍今辺塞の若勞綱よそく難くとのぞも。今もぞく大功を
立置万幸なすや。宋江再拜し且併進を戒ひ難くのり。筆某も一
百八人遠と亡し田布王慶と討平け。宋江も回りし時ち只一人
も扱せだけ度へあきまをいせ。公孫捕と別去揚子江を渡りて
後ち十ゆして七八の大將とあひ。今侍ひて宋存すとのりども何の面目を

て山東の父老ふまゝもえんや。張招討のり。先鋒必らずんを勞するを
 と歌よ。古より多富壽夭を命の位定まり。今緒將を失ふは
 物とかなんぞ。親方小戦死あま。敵方討死尚多。今日功其名逐
 主上具し知りあり。必らず厚く官壽を討らる。海を若て古郷
 歸ら。維りこれをよまざるものあらん。従ひ不幸をて命小先づち
 戦死するとも。芳名わ竹帛ふあるて千歳は後。子孫の奉らま
 宗後青海の供奉を缺ぜん。武夫乃奉をた致す。こまやう
 慰めけら。宋江拜謝す。あが。休息をあふく。さび張招討
 をふ令し。生授めせ。賊徒の固囚車の方捕まんと来り。引渡さ
 し。先を餘の從賊をて睦州ふあひく死刑に付ら。ゆるむ。こ小衛
 二縣乃賊人らも。方捕す。各く旧方人迎せける。

張招討の討む降系を免して良民とす。產業をなほす。
 ま。擄を出して百姓を安んせしめ。緒車の成敗平らなむ。睦州
 あひく太平宴をまうけ。褒賞とす。東京へ回るの用をなす。
 り。叔宋公明も自ら性事をおひ。定中のおあを失ひ。とを
 傷ん。酒をて儂り。ま。杭州に在る病は。張横ホ六人
 の病を。やむ。只楊林一人の恙が。然る人あま。や
 死亡。看病し。あつる朱富。穆春も朱富も死。穆春のみ
 恙が。宋江自ら。然は。先追福のあ。睦州の寺院に。七
 晝夜の法事とす。張横。穆弘。孔明。朱貴。白
 務。朱富。が。楊林。穆春。八宋江。あり。役小。宋江。宋江。宋江。

陣中ありて、人の屍を飯に葬り、改め礼を乞ひ、安葬せしめ、又
吳用と共、烏龍廟に訪りて、香を炷し、祭し、牲を供へ、神明救済の
恩を祈り、陣に回し、盧俊義と共、軍をたぐり、張招討り
後、杭州を回り、勅状のり、おけふ次の日、軍をたぐり、と有るは、
者、定はらり。相も、宋江が部下の諸將とも、おけふ、一百八人と、あつても
三十六人の、なせを、共く、あ

- 呼保義 宋江
- 大刀 関勝
- 小李 廣花榮
- 美髯公 朱仝
- 神行太保 戴宗
- 王麒麟 盧俊義
- 豹子頭 林冲
- 小旋风 柴進
- 華和尚 魯智深
- 黑旋风 李逵
- 智多星 吳用
- 雙鞭將 呼延灼
- 撲天鵬 李應
- 行者 武松
- 病關索 楊雄

混江龍 李俊

活閻羅 阮小七

浪子 燕青

神機軍師 朱武

鎮三山 黃信

病尉遲 孫立

混世魔王 樊瑞

裏天雷 凌振

鐵面孔目 裴宣

神算子 蔣敬

鬼臉兒 杜興

錦豹子 楊林

獨角龍 鄒潤

一枝花 蔡慶

鐵扇子 宋清

小遮攔 穆春

出洞蛟 童威

翻江蜃 童猛

鼓上魁 時迁

小尉遲 孫新

母大虫 顧大嫂

日家江に、法物を、杭州と、難き。杭州と、や、を、我を、よ、を、令
致、千、山、を、築き、陸路、十里、を、わたり、と、三、軍、す、て、杭州、を、たぐり、つ
城、中、の、張、招、討、の、兵、を、屯、せ、し、先、城、外、の、六、和、寺、に、本、陣、を、定、めて
諸將と、休、ま、し、宋江、盧俊義、と、も、に、相、々、城、中、に、お、け、ふ、令、を、せ、し、



山禪園家戸受希

宋江睦州の寺院小六將の遊覧と修む



修むと遊覧の寺院小六將の遊覧と修む

軍酒の山

密りあき。故の主人急後義を執りていつく素知より主人に陥つて其
とあり。遂ふ人とらうとてゆらり。何ぞ一と一お射まぶさ。今こふ切なり
名遂く退くべし。次後恐くそたふらん。今主人はほく宿と船延ふ
遠く潜ふ去。隙と隙して三年と経る。堂楽しうらむらんや主人のまに
いんぞや。急後我がいつく我汝と彼ふ梁山泊に生く百戦と経後朝
延ふゆ然してより。そ若楚も亦のあぐらぐら多々の義兄弟そく討死
とこといども。幸一我一家二人の命を今も今こふ切本流とてあつて片
已。永く富をも更へて時より汝いつくば不祥のまをいあや悪者が
いか。主人の辞免す。某もく不祥のまをいさぐ。主人のまあそ
不祥ふあぐらぐら。急後我が云我今もあつて少しの呉心をかくは朝廷の
くんぞ我ふ背くま。悪者が云主人笑あふむむや。韓信十分の功をい

いも。後の末尖宮小首と斬り。彭越の内將とうれり。英布の毒酒を飲
死せむや。禍とどくま。後悔とも途らん。急後我が云我き韓信の
三齊小檀王と稱す。陳豨をて遣反せむ。彭越の大梁に在て。高
祖の朝に英布と九河に任をまう。漢帝のねんと奪んとも。けり
依り高帝詔を雲夢小遊び呂后をてを斬りむ。我未だ彼らとま
某が辭を月ひらるらん。恐くこの後悔あらん。素とどく又志し改り美
宗光澤小辞別せば義氣重く人うまむ。將く我を放ちう小は。只
は如く主人と辞別せん。急後我がいつく。汝我を辭して今何ふり
うゆや。悪者がいつく。主人の前後小あらん。急後我笑ていつく。かくのまき
汝又何國へゆや。燕青とく小言へど。盧俊義を指し涙をたらくと流

其夜自ら寝て、令銀宝珠を一握とす。自ら抱ひて、（つる）のりて、（ひき）なりふらり

○宋公明孫を看て古郷へ歸る

相も翌日早朝、小軍卒一枚の字紙を拾ひ、是を宋公明へ与へたる。宋江彼字紙を披き、こころよくよしと喜して云

辱身燕青百拜懇告

先鋒主將麾下

自家収録多感厚恩效死。幹功補報難尽。今自思命薄身微。不堪國家任用。情願退居山野。為一間人。本得拜辭。恐主將義氣深重。不肯輕放。連夜潛去。今道口踟躕四句拜辭。望乞主師恕罪

鴉序分飛自可驚

身辺自有君王救

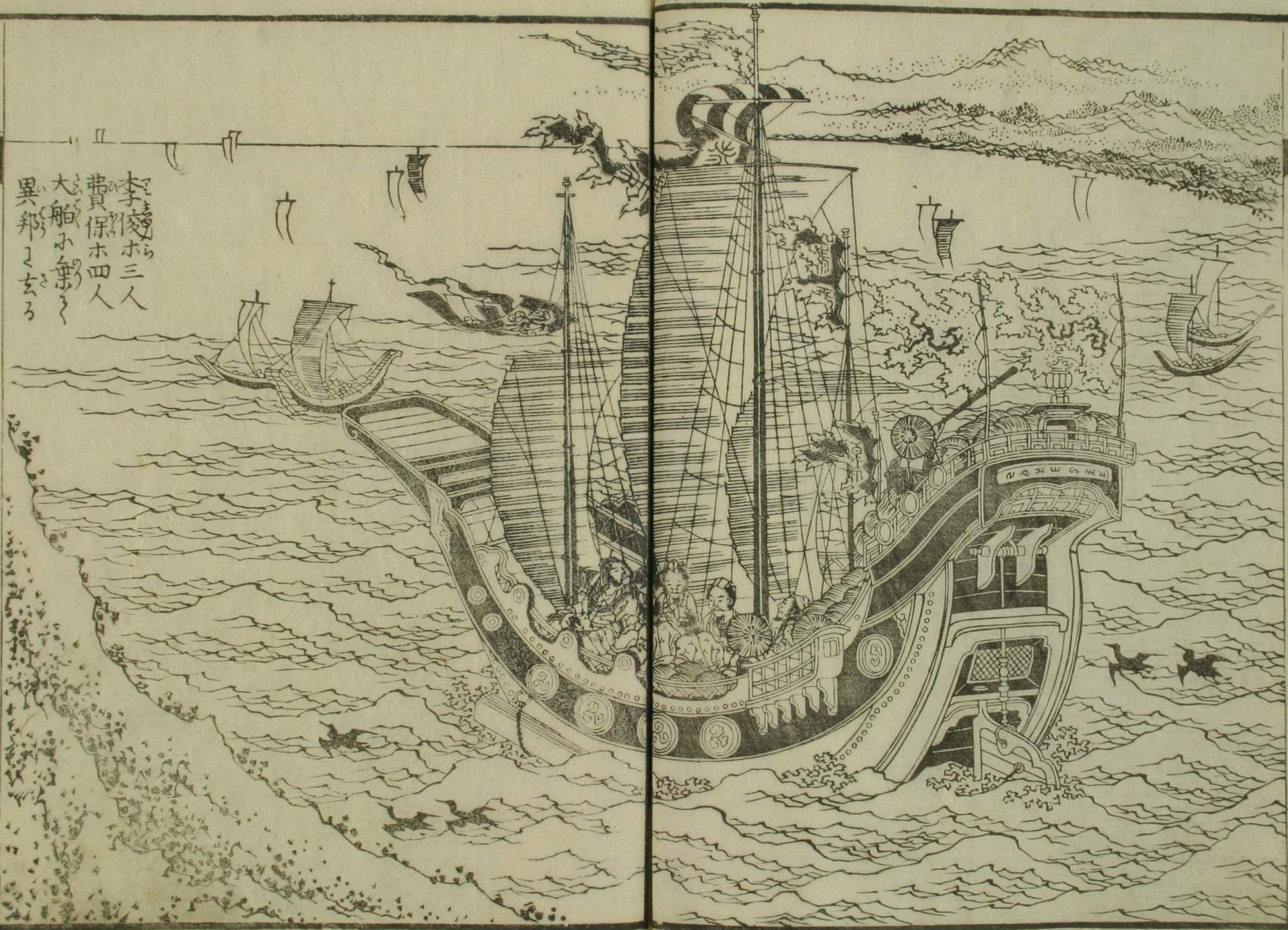
納還官誥不求榮

洒脫風塵過此生

宋江又從て、人中替くして、（よ）相又宋江の是を討死せし法を、（お）小友爵と稱りし。勅書を納り、（お）終極と共小軍卒を引具して、杭州へを發す。云程に己は種州の城外あり、（お）混江龍李俊、（お）風疾の中をりし。病を辨り、（お）宋江自ら医者を引て、病を問ひ、且抱腹をうさしめたり。其時宋江に謝して曰く、先鋒必く、（お）宋公明が朝廷に同り、（お）小日此を張某と稱し、（お）童威童猛とけ、（お）地を留りて看病せし。今近日病癒り、（お）時を即日朝觀して、（お）先鋒と共く、（お）強く日限を保す。今あてを述り、（お）宋江にさし、（お）銀を、（お）童威を、（お）極とせり。看病日ん

懇ふ云付て京師へと進発を。李俊三人は己に宋江が軍をの去をん
 自ら費保を乃りし嚮の巴人皆李俊を侍候居り共。却合七人擁掖
 庭中もあ織し。そく家成を去て大船を造り、多く垣扉を修て。大倉
 港より船を出し。大海に渡り、外國へまゝけり。後來李俊は暹羅國乃
 王となり童威、童猛、費保もそく友人となりて。衆をうけりたりや。
 去程に宋江も諸將大軍を引きて。常州洞あをさるるふ。着當日の
 戰場うね。傷重小塔ざりき。昔日江を渡りし時、法政、从、そ、恙らうり
 し。が、今の終となりけ。そ、者、俊と、織きたり。己に揚州とて淮安に迫つこ
 々、そ、六、も、や、系、城、も、ま、う、く、に、を、時、宋、江、命、を、諸、將、を、朝、親、十、の、月、
 意、と、う、さ、う、め、ら、る。こ、ま、宋、江、の、軍、を、九、月、の、下、旬、に、東、京、へ、送、り、な、さ、六、張、
 拒、討、中、軍、の、人、を、も、と、や、三、日、前、に、東、京、城、中、へ、入、り、り、う、り、を、侍、

宋江の人を、城の中へ入る。城外陳揚、兵を陳えし。勢、う、く、人、を、侍、候、
 於、天、子、の、の、令、を、侍、候、う、り。け、時、先、進、を、獲、州、あ、り。李、俊、あ、り、射、を、宋、
 年、返、り、あ、つ、て、若、ら、う、ら。李、俊、あ、り、と、病、を、患、ふ、あ、り、只、系、は、回、り、友、人、
 と、う、り、を、射、を、も、童、威、童、猛、ら、と、共、く、進、り、り、方、を、あ、り、張、り、け、
 宋、江、も、喉、喉、を、う、り、に、り、る。そ、時、宋、江、を、射、を、の、表、を、と、裴、宣、ふ、也、
 り、又、今、も、宋、江、返、り、法、將、於、合、二、七、人、又、王、率、小、死、を、の、者、の、人、射、を、
 そ、く、法、將、め、正、將、副、將、各、列、を、ひ、り、て。若、儀、政、を、裁、き、公、館、を、ま、り、。こ、
 聖、旨、を、侍、候、り、り。こ、ま、二、日、の、後、徽、宗、皇、帝、朝、廷、へ、出、り、る、に、迫、り、
 奏、し、て。宋、江、も、朝、廷、を、相、侍、し、若、ら、う、ら。天、子、亦、准、あ、つ、て。翌、日、朝、廷、
 へ、入、り、る。勅、宣、を、も、り、り、ひ、り、り、り、り、り、聖、旨、日、本、方、御、咄、う、り、り、り、宋、
 江、意、俊、義、と、初、く、り、て。二、十、七、人、の、法、將、を、各、も、小、お、寄、り、城、中、へ、入、り、り、



李陵三人
 費保亦四人
 大船小舟
 異邦之去

是日二夜の朔見たり。第一番の朔見とて宋に知らせ。相安とて文
 系に入し時を。物と受けて天子より。物と紅縁の袴乃復るといふ。
 金銀の牌と持せて。教をふ仕あふたり。第二番の朔見とて宋に遠兵
 と破て系と物と受けし時。天子命じて。若我をとるうら。朔見せしむ。
 今度の四海もよく平らぎ。右平乃時の朔見あまふとて。勅命あてて。文
 人の扮して朔見あまふとて。こふ終る宋に物めとて。各懐政を戴き公
 衆をよ。朔観も。宋系の百姓人民あり。只は二十七人のを。独りして。各
 各派と流るるあり。こふ六宋に。正陽門を。するより。下内を。入り。
 侍衛使。おまを。相迎へ。引て。王階の。り。あ。は。時。宋に。後。義。法。ね
 と。共。こ。き。ん。で。八。度。お。し。退。て。八。度。拜。し。申。以。中。て。又。八。度。お。し。三。八。二。十
 日。拜。拜。君。臣。の。礼。飾。り。を。も。た。ぬ。殿。上。殿。下。の。百。官。台。万。歳。と。唱。へ。け。は。は。時。

徽宗皇帝ハ宋にホダ兵二十七人のを返るといふ。心中嘆念し。先
 勅して。殿上。上。御。し。む。こ。も。宋。に。後。義。法。ね。と。い。ど。く。金。階。り
 の。り。珠。簾。の。下。小。院。ハ。迎。臣。子。く。珠。簾。を。捲。上。り。天子。別。ち。の。ま。う。て。
 朕。知。卿。亦。流。將。江。南。を。依。代。し。若。勞。を。も。況。や。義。兄。弟。の。事。を。失。ふ。を。大
 事。な。り。と。朕。豈。恤。む。し。堪。ご。ん。や。宋。に。政。を。委。て。お。ね。し。ま。し。と。の。り。臣。等
 不。少。を。ひ。て。た。し。ひ。賜。を。碎。き。骨。を。粉。と。す。も。國。家。の。大。恩。に。報。ず。る。を。能。は
 ざ。者。ハ。臣。等。一。百。八。人。又。壽。上。上。て。髮。義。せ。ふ。今。日。科。く。ず。も。十。八。と。失
 了。傳。で。人。數。を。録。し。て。聖。德。小。傳。を。依。て。を。む。し。て。六。御。瀝。と。う。と。天子
 宣。り。卿。等。の。都。下。王。事。を。死。ま。る。と。の。朕。各。追。号。を。加。へ。子。孫。を。封。じ。そ。の
 功。を。褒。め。と。す。宋。に。再。拜。し。傳。ぐ。表。文。を。御。案。の。上。に。供。へ。る。も。文。り

54

平南都總管先鋒使臣宋江謹上表
 伏念臣江等愚拙庸才孤陋俗吏往犯無涯之罪。幸蒙莫
 大之恩。高天厚地。豈能酬粉骨碎身何足報股肱竭力難
 水泊以除邪。兄弟同心。登五臺而發願。全忠兼義。護國保
 民。幽州城塵。戰遼兵。清溪洞擒方臘。雖微功。上達奈緣良
 將下沈。臣江日夜憂懷。且暮悲愴。伏望天恩。俯賜聖鑑。使
 已沒者皆被恩澤。在生者得庇洪休。臣江乞歸田野。願作
 農民。實陛下之賜。臣江不勝戰慄之至。謹錄存沒人數。隨
 表上進。以聞。

陣中少亡者。張順。阮小二。阮小五。雷橫。石秀。解珍。解寶。秦明。徐寧。董平。張清。劉唐。史進。索超。

偏將四十五人
 張順 阮小二 阮小五 雷橫 石秀 解珍 解寶
 宋萬 焦廷 陶宗旺 韓滔 彭紀 鄭天壽 曹正
 王定六 宣贊 孔亮 施恩 郝思文 鄧飛 周通
 龍興旺 鮑旭 段景住 侯健 孟康 王英 扈三娘
 項充 李衮 燕順 馬麟 單廷珪 魏定國 呂方
 郭盛 歐鵬 陳達 楊春 郁保四 李忠 薛永
 李雲 石勇 杜遷 丁得孫 鄒淵 李立 湯隆
 蔡福 張青 孫二娘

逢中少亡者。林冲。楊志。張橫。穆弘。楊雄。病者。張橫。穆弘。楊雄。正將十人。正將五人。

偏將五人

孔明 朱貴 朱富 白勝 時遷

杭州六和寺小僧を空化せしむる正物一人

魯智深 武松

魯智深 武松

系よりおのれ州小回り出まると正物一人

官寺を殺せし途中より去正偏將依四人の内正物二人

燕青 李俊

同日偏將二人 童威 童猛

旧系小僧を物に依りて久し回り候まると偏將五人

安道全 皇甫端 金大堅 蕭讓 樂和

宋江 盧俊義 吳用 関勝 呼延灼 花榮 柴進

今だ胡觀まると正偏將依二十七人の内正物十二人

偏將十人

李應 朱仝 戴宗 李達 阮小七

朱武 裴宣 蔣敬 黄信 孫立 樊瑞 凌振

杜興 宋清 郝潤 蔡慶 楊林 穆春 孫新

顧大嫂

宣和五年九月 日 先鋒使臣宋江副先鋒目盧俊義等謹上表

天子表を呈す。嗟嘆して宣り。卿等一百八人と天の星降ふ候ずれ

者ろふ。今僅に二十七人の存せり。まゝ十の内八分とせり。朕も

悲しむ。今王車小没する。正將の各村にて忠武郎とす。偏

將と授け。子孫あき亡將の各廟と建て。日時ふあをさす。申すも

張明をよきと取む切あまは。勅して令孫將軍と追号し。魯智深を城
 そと投ぐ太切あり。又終りを若も。刑ち義照暨祥師と強む。武松を
 多く故を討つ切あり。今又脅をわけて出家を。刑ち清忠祖師と封じ。孫十
 万を縛り天牢を終らし。故の女將二人扈三娘と花陽那夫人と稱し。
 孫二娘と旌徳郡君と封じ。比彦朝二より法拍宋江急後義あるを孫
 て。正將十人あり。武節將軍の号を賜ひ。汝州の統制と授け。偏長と封じむ。
 又女將顧大嫂と東原縣君と封じんと。も右將を縛り人々あり。
 先鋒使宋江を武徳を文楚州の安插使と授け。若く兵を統制と封じむ。
 副先鋒急後義と武功を文廣州の安插使と封じむ。若く兵馬副統制と
 封じむ。
 軍師呉用と武務軍の兼宣使と封じむ。

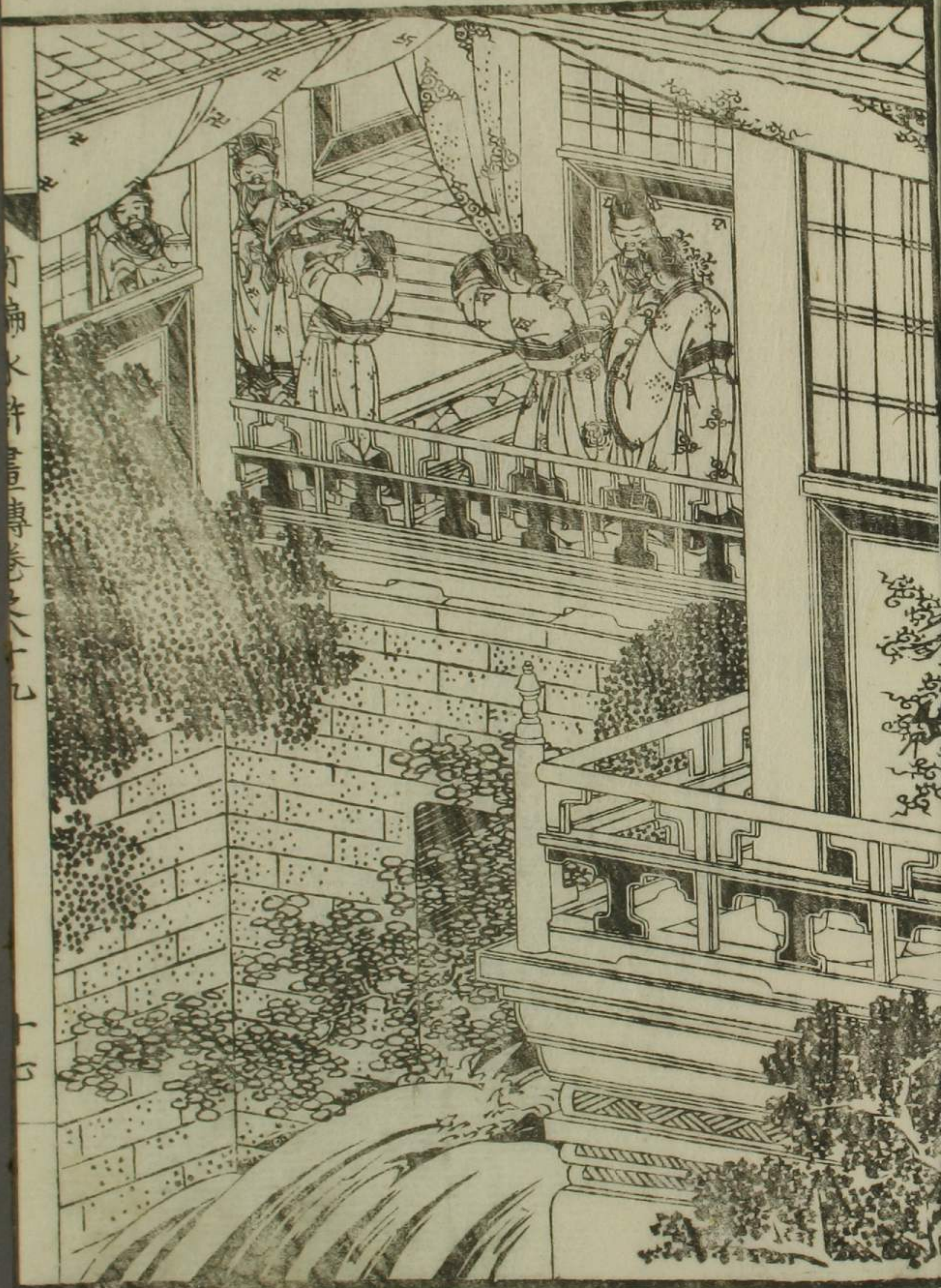
関勝と大名府の正兵馬統制と封じむ。
 呼延灼と滑州の兵馬指揮使と封じむ。花榮と兗州府の兵馬統制と封じむ。
 李應と中山府鄆州の統制と封じむ。柴進と濮州の統制と封じむ。
 朱仝と保定府三山統制と封じむ。戴宗と兗州府の統制と封じむ。
 李達と鎮江潤州府統制と封じむ。阮小七と蓋天軍統制と封じむ。
 天子悉く勅し。早く又宋江急後義を各賞令一千ある。孫十足を他
 一衣を各賜一疋と賜り。も他の正將より各金銀百兩。孫一疋づと賜ひ。偏
 將小令三百ある。孫一疋と賜り。も宋江急後義を初め。若く各賞を賜む。
 謝し。なり。若く正將は。是金銀承恩者。若く功名名逐人との。若く時り
 宋江又奏し。このり。先達て。烏龍炭の嶽。若く包道乙。孫法をり。て。方
 松樹中。若く大樹と化し。人の形と見え。己は。兵馬軍と破り。若く令も危

新編水滸畫傳卷之八十九

十四

ふりりし如小鳥龍ちて其と現り。色通しが初樹と破り。長が敵方の軍
と救ひ。あうのころに又中下屢其をわらわ。國を獲り氏を係ら。長
ら數万の軍を救ふ。是を以て長を令あま。よつて長徳を鳥龍大正
廟宇と修せん。其を免せり。万をを正し。廟宇を建立し。つり。水く
玉家の守護神とす。つと奏さ。天子同く宣り。鳥龍大正といひ。と
何の神よりやと。宋江長人。其より。長も亦初め何の神よりを。あ
彼中下を。其を。自ら。姓を。郡と。説り。あま。よつて。次乃日異用と。其より
松林より。鳥龍大正の山下。まで。及び。鳥龍大正の廟より。神像と。おさ
小中下。い。と。其貌。い。さ。あ。ま。よ。つ。て。比。神。を。唐。朝。の。進。士。郎。俊。と
い。ひ。人。為。弟。一。は。は。落。て。死。せ。り。が。後。免。小。神。と。な。れ。り。は。始。末。廟。前。に。た
碑。あり。て。彫。あり。せ。り。と。天子。は。後。代。を。安。ら。ひ。刻。り。忠。請。靈。徳。普。子。結

惠龍王の号を授け。御弟の額と掲げし。又其を。方。攝。が。名。採。り。州。縣。の
名。と。改。め。睦。州。と。更。め。嚴。州。と。歙。州。と。更。め。徽。州。と。清。溪。縣。を
淳安縣と。封。常。源。洞。を。鑿。室。と。山。島。と。又。府。庫。の。涉。を。り。つ。鳥
龍。大。正。の。廟。と。を。供。し。氣。殿。を。閣。令。派。を。海。め。り。原。東。江。南。の。地。方。の
百姓。を。一。く。方。攝。が。暴。悪。を。治。せ。り。三。年。の。貢。を。免。し
る。ひ。たり。其。日。宋。に。亦。各。封。を。封。し。も。空。上。す。と。右。平。宴。と。後。丹。切。長
及び。文武。の。百。友。九。卿。小。神。酒。と。納。り。た。れ。ば。亦。亦。思。を。封。し。た。り。其。時
又。奏。す。て。の。り。長。が。下。の。家。卒。梁。山。洞。より。陟。し。去。封。先。大。正。の。今
ま。と。た。ら。し。肉。と。んと。終。末。あ。り。希。と。あ。り。を。思。を。う。人。空。上。奏。す。り。如
と。准。げ。ら。い。初。と。軍。役。と。ん。と。終。末。あ。り。希。と。あ。り。を。思。を。う。人。空。上。奏。す。り。如
抱。狸。虎。威。の。二。尊。と。ま。き。り。毎。月。侍。務。を。納。り。家。後。つ。つ。を。終。末。あ。り。希。と。あ。り。を。思。を。う。人。空。上。奏。す。り。如



竹浦人許言傳卷之十九



天子太平官
後法官及
宋江以下
功且
孟酒と

新編水滸畫傳卷之十九

計二百也。猶十是と、初は各右々小物く、宋江又奉く、のり。臣郭楫
縣の生を死と爲て、得てより、必其自ら右々小物、形々天子を惡と爲ひ
故の、同く親親と、同ひ、汝、楚州の仁、上、登、六、何の業、う、これ、あ、人、上、官、
大、又、收、び、再、ひ、抄、十、万、也、を、初、ひ、物、の、資、と、う、こ、ろ、の、人、六、宋、江、聖、恩、の、條、
き、と、感、謝、し、相、辭、し、て、朝廷、と、恩、を、う、り、次、の、日、中、書、者、あ、て、右、平、宴、を、設、
け、宋、江、を、り、て、た、り、第、三、日、の、極、密、院、を、宴、を、催、け、り、こ、こ、の、張、括、
討、判、如、督、を、極、密、使、使、二、參、謀、王、稟、趙、禪、二、物、不、動、ま、ど、各、厚、き、初、め、
了、去、程、一、宋、江、の、翌、日、方、備、と、東京、の、市、上、ふ、引、物、を、凌、遲、ふ、初、め、と、
日、ま、ど、人、は、肆、ふ、り、り、情、不、結、あ、り、て、り、

宋江重賞陞官日

善惡到头終有報

方臘當刑受副時

只爭來早與來遲

最、半、と、り、て、考、と、意、り、官、一、昇、り、大、義、と、未、世、一、移、へ、ら、り、も、惡、業、を、行、
ふ、て、人、を、善、し、り、残、ひ、を、方、業、花、と、善、り、乃、ち、く、刑、せ、ま、さ、こ、の、醜、々、れ、と、
後、代、ふ、と、ら、善、ふ、善、報、を、得、て、惡、報、の、あ、り、と、只、報、來、り、の、遲、き、と、早、
き、の、い、つ、も、其、報、あ、り、必、死、の、天、理、う、れ、ば、右、より、惡、を、造、り、こ、う、に、な、ら、
人、ゆ、く、是、と、爲、し、惡、を、算、し、こ、う、も、と、の、鬼、ゆ、く、是、と、得、ま、さ、り、と、り、
る、ん、ん、や、さ、て、も、宋、江、へ、率、を、右、集、め、軍、役、と、ん、と、と、教、小、も、の、六、絶、種、
布、威、の、二、受、ふ、返、り、軍、役、と、り、毎、月、俸、弟、を、あ、ら、お、ら、り、飲、ん、と、を、
教、ふ、ま、り、金、銀、を、与、へ、同、く、宋、江、法、事、を、論、し、分、派、已、不、定、り、ん、ま、を、
衆、人、に、詳、別、し、て、金、中、宋、法、と、同、く、軍、卒、二、百、餘、人、と、引、率、し、各、法、協、
の、金、銀、衣、袍、等、々、物、事、を、得、り、又、東京、を、發、せ、り、山東、へ、と、を、飛、を、か、く、
て、宋、江、宋、法、の、右、り、ふ、お、宋、法、と、を、右、り、同、く、日、を、經、り、山東、郭、城、

論者いつくけ一版心得がこころを宗江の玉考の人より徳風山とて法政の
 と合符し梁山泊小姓で罪蓋し投んと大勢性し形遠中めて右旁より宗江の
 ち伏せぬ。父ちと死せりと空大勢を捨て連おし己一人古々地同じとあり。師
 一ちこの死に絶してちてが宗江に命じあさせ一係する宗江幾びくの先遊を
 一と初し洋入り今宗江に振安の上先洋使の獄とあらんそり分のみ宗江に
 雲泥の差なり。宗江の意を主し初せしむきめ之若一月の内教をて家
 りしるる難さこそ難く成つて。宗江に宗江其よ宗江とて初しそそ宗江とて
 僅せざる如きん。師が能ひ方捕と死にせと迎ふし主ともちこの死を家外より
 知るをわいさつものいん流や方捕亡びて後の宗江一先連て初し同りする將士も
 初まざり計書とあるとも宗江一初らざるそら初らざらん宗江流をたてち
 ぬふゆり乃で。老父の死を一初らざる初らん宗江の家の一父の拒りて聲をてけき

けり。身外其のゆく宗江が恙なきに宗江の病死の初とあしむ向河もわらん他も其
 何の病をて幾だもの日殺を流すや果し向人し親し考ある人父とんをて流すに
 何ぞぞ人情うしし主の初者に郡城縣の押目宗江を死を担う天り流浪の宗江
 も大業其終使の職する宗江も一初らざる初らん宗江とて初らざらん宗江の
 の三十六人名をありある面秋揚志しけり初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる
 と加三十七人を初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる
 ともその作り初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる
 と云するとも初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる
 然初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる初らざる
 張招討劉光世の名も出也。参孫從氏。叶氏二人は其れを史と云ふ初らざる初らざる

